

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370433

研究課題名(和文) 日本語と韓国語の複雑述語とモジュール形態論

研究課題名(英文) Complex Predicates in Japanese and Korean and Modular Morphology

研究代表者

和田 学 (Wada, Manabu)

山口大学・人文学部・教授

研究者番号：10284233

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本語の複合動詞は覚えているもの(語彙的)と新たに作り出せるもの(統語的)とに分けられることは知られていたが、韓国語の複合動詞にも同様の区別が成り立つことを明らかにした。しかし、韓国語の複合動詞を構成する要素の間にとりたて詞(八等)を挿入することができる等、構成要素に独立性が見られる。日本語の第一要素がテ形を取る複合動詞(くれてやる、読んでやる)にも同じ特徴が見られ、韓国語と同じ分析が可能であることを示した。また、この分析は構成要素に独立性が見られる他の複雑述語にも応用が可能であり、「気になる」等のイディオム、尊敬語、謙譲語等にも応用が可能である。

研究成果の概要(英文)：It is well-known that Japanese compounds are divided into lexical compounds and syntactic compounds. This study has shown that the distinction is applicable to Korean compounds. Unlike Japanese, the constituents of Korean compounds show restricted independency. Japanese compounds whose first constituent takes te-form also independency as seen in Korean compounds. The claim admitting the independency of constituents in a word, is applicable to other complex predicates of the two languages, such as some idioms, complex motion predicates, honorifics and so on.

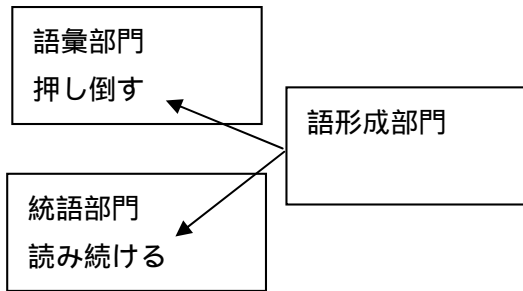
研究分野：；言語学

キーワード：日本語 韓国語 複合動詞 複雑述語 軽動詞

1. 研究開始当初の背景

(1)日本語の複合動詞に関しては影山(1993)の提唱した語彙的複合動詞(押し倒す etc.)と統語的複合動詞(読み続ける/始める/終わる etc.)という分類が広く受け入れられており、そこで用いられた理論即ち、語形成部門は独立しており、その部門の規則が語彙部門にも統合部門にも適用可能であるとするモジュール形態論は説明力を持っていた。

影山(1993)のモジュール形態論モデル



一方、韓国語の複合動詞にもこの分類、及び説明が応用できるかどうかは検討されておらず、韓国語の複合動詞は全て統語部門で形成されるとする考えが優勢であった。

また、日本語と韓国語の複合動詞の対照研究も殆ど見られなかった。

(2)日本語の複合動詞の分類には様々なテストが用いられるが、複合動詞以外の様々な複雑述語にこれらのテストを適用して、分類するという試みは見られなかった。

2. 研究の目的

(1)日本語と韓国語の複合動詞を様々な観点から対照し、両者の異同を明らかにする。

(2)日本語と韓国語の複雑述語を包括的に扱い、これらを形成する簡潔なモデルを提案する。

3. 研究の方法

特定の理論に依存することを可能な限り避け、日本語と韓国語の複合動詞に関する言語事実と、それから得られる記述的一般化を重視した。そのため、可能な限り多くの文献からデータを収集し、また、文献から得られないデータについては調査を行って、データベースを作成し、説明しなければならない現象を網羅した。また、これらのデータに基づいて、記述的一般化を行った。

また、複合動詞に適用できる種々のテストを複合動詞以外の複雑述語も含めた全ての複雑述語に網羅的に適用し、複雑述語を包括的に分類することを試みた。

この分類に基づいて、モジュール形態論の理論に改良を加えた。

4. 研究成果

(1)影山(1993)の日本語の複合動詞の分類に際して用いられた生産性、意味的透明性、代用表現化、サ変動詞との共起、包摂関係、空所化等のテストと、韓国語固有のテストを韓

国語の複合動詞に網羅的に適用した。その結果として、韓国語の複合動詞が日本語と同様に語彙的複合動詞(kwue- nek-ta 焼く(連用形) 食べる=焼いて食べる)と統語的複合動詞 ilke po-ta 読む(連用形) 見る=読んで見る)に分けられることを示し、モジュール形態論が韓国語にも応用できることを示した。一方で、日本語の複合動詞が内部にとりたて詞を挿入することができない(*押しも倒す、*読みも終わる)のと異なり、韓国語の複合動詞は語彙的であれ、統語的であれ、とりたて詞の挿入を許す(kwue-nun nek-ta 焼く(連用形)-ハ 食べる=焼いては食べる、ilke-nun po-ta 読む(連用形)-ハ 見る=読んで見る)ことと、複合動詞の第二構成素のみを取り出して反復することができる等、構成素が統語的に独立していることを示す振る舞いをすることを明らかにした。

これに基づき、複雑述語には従来の語彙的、統語的という分類基準の外に、構成素が形態的に融合するか独立性を示すかという分類基準が存在することを示し、構成素が独立する複雑述語のあるものは[vo [V0] [V0]]という構造を持つ、即ち、語レベルの投射が結合して語レベルを形成し得ることを主張した。

更に、上記の、構成素が独立性を持つ複雑述語が存在し得るという韓国語での知見がこれまで十分な研究が行われて来なかった日本語の複合動詞に応用可能であることを示した。第一構成素がテ形を取る複合動詞が語彙的なもの(くれてやる etc.)と統語的なもの(読んでやる/見る/しまう etc.)とに分けられることを、生産性、意味的透明性、空所化等のテストに基づいて明らかにした(語彙的テ形複合動詞と統語的テ形複合動詞)。語彙的/統語的テ形複合動詞は、第一構成素が連用形を取る複合動詞と異なり、構成素が限定的な独立性を示す。まず、これらの複合動詞の内部にとりたて詞や接頭辞を挿入することができる(くれてハやる、読んでハやる)。第二に、語彙的/統語的テ形複合動詞の第二構成素だけを取り出して反復することができる(くれてやりやり、読んでやりやり)。第三に接頭辞オを第二構成素の前に置くことができる(くれておやり、読んでおやり)。これらの事実は、語彙的/統語的テ形複合動詞の構成素が統語的に独立していることを示しており、韓国語の複合動詞と同じ分析が可能であることを示した。

(2)構成素が融合してるか独立しているかという基準を従来の語彙的・統語的という基準を組み合わせることで、他の複雑述語にも同じ分析が可能であることを示した。一部のイデオム(気になる、手にする etc.)は語彙的テ形複合動詞と同様に意味的透明性の低さ等のテストに関して、語彙的であることを表す一連の特徴を示すが、構成素の隣接性等の語としての特徴も示す。一方、この種のイデオムでは構成素が独立していることを示す特徴が観察できる。(気にはする、気にお

し)。統語的テ形複合動詞と同様に、統語で形成され、かつ、構成素が独立性を示すものには、日韓の複合移動動詞(買いに八行く)、日本語の主語尊敬形(お読みに八なる)、ナル構文(赤く八なる)が含まれる。

複合移動動詞を例に取ると、生産性、意味的透明性の高さや代用表現化が可能なことは、これが統語的に形成されることを示している。一方、空所化ができないこと等は、この複雑述語が、語を形成していることを示している。複合移動動詞の構成素は、統語的テ形複合動詞と同様に、統語的に独立していることが示され(読みに八行く、読みに八お行)、統語的テ形複合動詞と同じ分析が可能であることを示した。

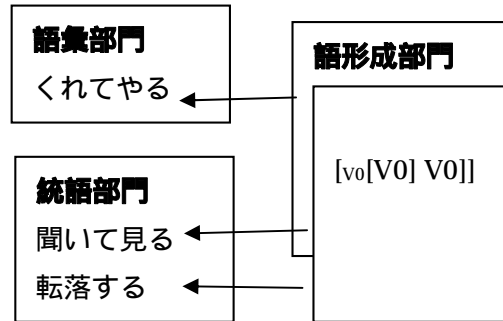
これまで言及した日本語の複合動詞は「方」名詞化を適用できるという点で、句ではなく語であることは明らかである(くれてやり方、聞いてやり方、買いに行き方、お読みに八なり方 etc.)

	融合	独立
語彙的	押し倒す	韓国語 語彙的複合動詞 くれてやる 気にする
統語的	読み続ける	韓国語 統語的複合動詞 聞いてやる 買いに行く お読みに八なる

この分類を説明するため独立した語形成部門に[vo [V0] [V0]]という規則が含まれ、これが語彙部門にも統語部門にも適用するという変更をモジュール形態論に加えた。

(3)日韓の軽動詞構文は、統語的に形成される独立型の複雑述語と類似した特徴を持つ。このため、Iida and Sells(2008)等では、これらは同じ規則によって形成されるとされていた。

しかし、日本語の統語的独立型複合動詞と軽動詞構文と「方」名詞化に関して、前者が複雑述語の内部にノが現れることはない(*聞いてノやり方、*取りにノ行き方)のに対し、後者は、ノがなければならない(転落*(ノ)し方)という相反する特徴を持ち、両者に同じ分析が適用できないことは明らかである。韓国語においても、統語的複合動詞の場合、否定辞 an が複合動詞の直前に現れなければならないのに対し、軽動詞構文では動作性名詞と軽動詞の間に現れなければならないという違いがある。これらの事実を説明するために、統語部門に語形成部門の規則が適用して統語的独立型複雑述語が形成された後に[vo [V0] [V0]]が軽動詞構文を形成するというモデルを提唱した。このモデルでは、[vo [V0] [V0]]という規則が語彙部門にも統語部門にも適用するが、統語的テ形複合動詞等が形成された後の統語部門でも適用する。



これにより、「方」名詞化が起こったのちに動作性名詞が「し方」と結びつくためにノが必要となることが説明できる。

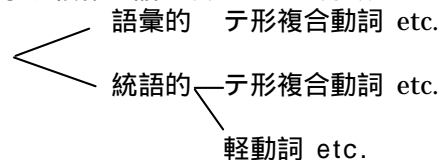
日本語において軽動詞と同様の振る舞いをするのは謙譲語(お呼びする)である。謙譲語も、生産性等の点において統語的に形成されることは明らかであり、構成素が独立していることを示す事実もある(お呼び八する)。謙譲語は「方」名詞化において、軽動詞構文と同様に、ノが必要であること(お呼び*(ノ)し方)から、軽動詞同様の分析が可能であることを示した。

韓国語の軽動詞についても同様の分析が可能であることを示した。韓国語の軽動詞構文においても、動作性名詞が軽動詞から独立していることはとりたて詞の挿入等から明らかであり、統語的に形成されることも明らかである。

韓国語の軽動詞構文には、動作性名詞と否定辞 an、一部の副詞の間に複雑な語順の制約が見られる。動作性名詞と副詞の間には語順の制約はないが、否定辞 an はこれらに後続しなければならない、それ以外の語順は全て不適格になる。

本研究では韓国語の軽動詞構文に日本語と同じ分析を適用し、また、否定辞 an の添加が統語的複合動詞と同じレベルで行われた後に動作性名詞が軽動詞と結合するとしているため、動作性名詞が an に先行しなければならないという事実は簡潔に導ける。副詞も軽動詞構文と同じレベルで結合するためにどちらが先行しても適切な形式が得られる。

日本語でも韓国語でも構成素が独立性を示す複雑述語は次の3つに分類できる。



上記モデルは、この三分類に対応するという点で説明力があると言える。

また、本研究は、語と句を分けるテストとされて来たとりたて詞の挿入が語の内部に適用できる場合があることを示し、語の一義的な定義ができないことを示した。前述のように、「方」は軽動詞以外の複雑述語を全て名詞化できることはこれらが語であること

を支持している。一方で、これらの複雑述語の中には、とりたて詞の挿入ができるものではないものがあることも上に見た通りである。このことは、とりたて詞の挿入ができないことが語であることの信頼できる基準として来た従来の研究にとって問題となることを示唆している。

<引用文献>

影山太郎, 文法と語形成, くろしお出版, 1993
Iida, Masayo & Peter Sells Mismatches between Morphology and Syntax in Japanese Complex Predicates, *Lingua* 118, 2008, 947-968.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

和田学 日本語と韓国語の複合移動動詞
九州大学言語学論集 35 号
2015, 267-285. 査読無

[学会発表](計 0 件)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

和田学 (WADA, Manabu)
山口大学人文学部・教授

研究者番号：10284233

(2) 研究分担者 ()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：